

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道4号 石鳥谷バイパス <small>いしどりや</small>	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 東北地方整備局
起終点 自：岩手県花巻市石鳥谷町中寺林第3地割 <small>いわてけんはなまきしいしどりやちようなかでらほやしだいさんちわり</small> 至：岩手県紫波郡紫波町大字犬淵 <small>いわてけんしわぐんしわちようおおざいぬぶち</small>		延長 2.8 km
事業概要 一般国道4号は、東京都中央区と青森県青森市を結び、広域交流の支援並びに沿線市町村の連携強化を図る幹線道路である。 石鳥谷バイパスは、花巻～盛岡間の国道4号で唯一の2車線区間であることから、交通のボトルネック箇所となっており、円滑な交通の確保を目的とした事業である。		
S46年度事業化	H14年度都市計画決定	—
H19年度工事着手	—	
全体事業費	27億円	事業進捗率
計画交通量	23,400台/日	供用済延長
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 3.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 18億円/37億円 (事業費: 7億円/26億円) (維持管理費: 11億円/11億円)
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 【残事業】 交通量変動 : B/C=4.0(交通量 +10%) 事業費変動 : B/C=3.4(事業費 +10%) 事業期間変動 : B/C=3.6(事業期間 +20%)	総便益 (残事業)/(事業全) 65億円/ 83億円 (走行時間短縮便益 : 57億円/ 71億円) (走行経費減少便益 : 7.7億円/ 12億円) (交通事故減少便益 : 0.52億円/0.38億円)
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・4車線⇒2車線の交通ボトルネック箇所が解消され、走行速度（最小35.6km/h）の向上が期待できる。 ②冬期の幹線道路機能の確保 ・東北縦貫自動車道通行止め（16回・98.4時間/年）時における幹線道路としての機能確保が期待される。 ③交通事故多発箇所の回避 ・正面衝突事故をはじめとした重大事故（最大死傷事故率153件/億台キロ）の低減が期待される。 ④物流支援 ・大手自動車組立工場では、自動車部品などを盛岡貨物ターミナルから岩手工場（金ヶ崎町）へ搬入（40往復/日）しており、物流の定時性の向上・効率が期待される。		
関係する地方公共団体等の意見 岩手県（知事）、国道4号岩手県央地区拡幅期成同盟会（花巻市、盛岡市、矢巾町、紫波町）などの団体等から、石鳥谷バイパスの整備促進について要望がある。 県知事の意見：事業の継続に異議はありません。本事業は、花巻～盛岡間で唯一残っている2車線区間の4車線化を図るものであり、石鳥谷地区の交通混雑の緩和や安全確保を図るため、早期の完成をお願いしたい。なお、事業実施に当たっては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。		
事業評価監視委員会の意見 対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である。 なお、以下の意見があった。 JRとの協議については、全国共通の課題として国土交通本省が検討するよう、意見具申すること。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率63%		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業進捗に係る問題はない。早期の供用を目指す。		
施設の構造や工法の変更等 ・工期短縮に効果的で経済的なプレキャスト長尺製品を使用するとともに、再生資材（再生砕石、アスファルト合材等）を活用し、コスト縮減を図る		

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。